



ダム効果を再確認

最上川沿川 豪雨被災地視察

足立議員

自民党の足立敏之参院議員は5日、7月27―29日の梅雨前線に伴う豪雨災害で被災した山形県の最上川沿川地域を視察した。直轄の寒河江ダムでは、既往最大となる128

大蔵村の被災現場を視察する
足立議員（左から2人目）

3立方メートルが流入したものの、水をため込んだことで最大261立方メートルしか放流せず、下流の寒河江市西根地点の水位を1・6メートル低下させる効果を発揮したとの説明を受けた。「ダムは効果があると改めて実感した」と話している。足立議員は寒河江ダムのほ

か、白鷹町の国道348号崩落現場、県が管理する白水仙の堤防決壊箇所、大旦川の排水機場、大石田町の最上川大橋、大蔵村の河岸決壊箇所と浸水被害箇所を視察した。大旦川では、床上浸水が60戸に及んだ浸水被害の状況について志布隆夫村山市長などから説明を受けた後、将来的な拡張を視野に入れて排水機場の周辺に調整池を整備している県に対し、前倒しで整備を進めるよう要請した。